

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】平成20年10月16日(2008.10.16)

【公表番号】特表2008-511652(P2008-511652A)

【公表日】平成20年4月17日(2008.4.17)

【年通号数】公開・登録公報2008-015

【出願番号】特願2007-530256(P2007-530256)

【国際特許分類】

A 6 1 K	31/7088	(2006.01)
A 6 1 K	31/7105	(2006.01)
A 6 1 K	38/00	(2006.01)
A 6 1 P	17/02	(2006.01)
A 6 1 P	41/00	(2006.01)
A 6 1 K	45/00	(2006.01)
A 6 1 K	38/22	(2006.01)
A 6 1 K	38/21	(2006.01)
A 6 1 P	1/14	(2006.01)
A 6 1 P	3/02	(2006.01)
A 6 1 P	37/02	(2006.01)
C 0 7 K	14/765	(2006.01)

【F I】

A 6 1 K	31/7088	
A 6 1 K	31/7105	
A 6 1 K	37/02	
A 6 1 K	37/18	
A 6 1 P	17/02	
A 6 1 P	41/00	
A 6 1 K	45/00	
A 6 1 K	37/24	
A 6 1 K	37/66	G
A 6 1 P	1/14	
A 6 1 P	3/02	
A 6 1 P	37/02	
C 0 7 K	14/765	Z N A

【手続補正書】

【提出日】平成20年8月27日(2008.8.27)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

創傷治癒の促進に効果を有する生成物Rの所定量を含む、創傷治癒を必要とする患者において、創傷治癒を促進するための医薬組成物であって、前記生成物Rがヌクレオチド、及び14kDa以下の分子量を有するペプチドを含み、前記ヌクレオチド及びペプチドが、カゼイン、ペプトン、RNA及び血清アルブミンの分解生成物であり、かつ前記組成物が、260nm/280nmで2.0(±10%)、及び260nm/230nmで1.

4 (± 1 0 %) の典型的な吸収比で光吸収スペクトルを有する、前記医薬組成物。

【請求項 2】

前記患者がヒトである、請求項 1 記載の医薬組成物。

【請求項 3】

前記生成物 R の量が、1 日につき体重 1 キログラム当たり約 0 . 5 マイクロリットル～約 1 0 0 マイクロリットルの範囲である、請求項 1 記載の医薬組成物。

【請求項 4】

前記生成物 R の量が、1 日につき体重 1 キログラム当たり約 2 . 5 マイクロリットル～約 4 0 マイクロリットルの範囲である、請求項 1 記載の医薬組成物。

【請求項 5】

前記生成物 R の量が、1 日につき体重 1 キログラム当たり約 1 0 マイクロリットル～約 2 5 マイクロリットルの範囲である、請求項 1 記載の医薬組成物。

【請求項 6】

前記生成物 R が非経口的に、局所的に又は全身的に投与される、請求項 1 記載の医薬組成物。

【請求項 7】

前記生成物 R が、前記創傷の全面積を包み込むのに十分な量で創傷に局所的に投与される、請求項 1 記載の医薬組成物。

【請求項 8】

前記創傷が、褥瘡性潰瘍、糖尿病性潰瘍、外科的創傷又は熱傷の結果である、請求項 1 記載の医薬組成物。

【請求項 9】

有効量の抗生物質、生物学的反応修飾因子又は創傷治癒因子をさらに含む、請求項 1 記載の医薬組成物。

【請求項 10】

有効量の生物学的反応修飾因子をさらに含み、該生物学的反応修飾因子が、インターフェロン - 、インターフェロン - 、インターロイキン - 2 、インターロイキン - 4 、インターロイキン - 6 及び腫瘍壞死因子からなる群から選択される、請求項 1 記載の医薬組成物。

【請求項 11】

有効量の創傷治癒因子をさらに含み、該創傷治癒因子が、インターフェロン - 、インターフェロン - 、インターロイキン (I L) - 1 、 I L - 2 、 I L - 4 、 I L - 5 、 I L - 1 5 、腫瘍壞死因子、 f l t - 1 リガンド、アルギニン、結合組織成長因子、アデノシン、環状アデノシンーリン酸、線維芽細胞増殖因子ファミリー、腫瘍成長因子 - 、腫瘍成長因子 - (1 及び 2) 、血管内皮細胞増殖因子、上皮細胞増殖因子ファミリー、血小板由来成長因子ファミリー、インスリン様成長因子ファミリー、一酸化窒素、マクロファージ刺激タンパク質、及びマクロファージ由来成長因子からなる群から選択される、請求項 1 記載の医薬組成物。

【請求項 12】

治療を必要とする患者の、好ましくは創傷又は熱傷を患っている患者の食欲不振又は疲労を治療するための医薬組成物であって、食欲不振又は疲労の治療に有効な生成物 R の所定量を含み、前記生成物 R がヌクレオチド、及び 1 4 k D a 以下の分子量を有するペプチドを含み、前記ヌクレオチド及びペプチドが、カゼイン、ペプトン、 R N A 及び血清アルブミンの分解生成物であり、かつ前記組成物が、 2 6 0 n m / 2 8 0 n m で 2 . 0 (± 1 0 %) 、及び 2 6 0 n m / 2 3 0 n m で 1 . 4 (± 1 0 %) の典型的な吸収比で光吸収スペクトルを有する、前記医薬組成物。

【請求項 13】

前記患者がヒトである、請求項 1 2 記載の医薬組成物。

【請求項 14】

前記生成物 R の量が、1 日につき体重 1 キログラム当たり約 0 . 5 マイクロリットル～

約 100 マイクロリットルの範囲である、請求項 12 記載の医薬組成物。

【請求項 15】

前記生成物 R の量が、1 日につき体重 1 キログラム当たり約 2.5 マイクロリットル～約 40 マイクロリットルの範囲である、請求項 12 記載の医薬組成物。

【請求項 16】

前記生成物 R の量が、1 日につき体重 1 キログラム当たり約 10 マイクロリットル～約 25 マイクロリットルの範囲である、請求項 12 記載の医薬組成物。

【請求項 17】

前記生成物 R が非経口的に、局所的に又は全身的に投与される、請求項 12 記載の医薬組成物。

【請求項 18】

前記生成物 R が、前記創傷の全面積を包み込むのに十分な量で創傷に局所的に投与される、請求項 12 記載の医薬組成物。

【請求項 19】

前記創傷が、褥瘡性潰瘍、糖尿病性潰瘍、外科的創傷又は熱傷の結果である、請求項 12 記載の医薬組成物。

【請求項 20】

有効量の抗生物質、生物学的反応修飾因子又は創傷治癒因子をさらに含む、請求項 12 記載の医薬組成物。

【請求項 21】

有効量の生物学的反応修飾因子をさらに含み、該生物学的反応修飾因子が、インターフェロン - 、インターフェロン - 、インターロイキン - 2 、インターロイキン - 4 、インターロイキン - 6 及び腫瘍壞死因子からなる群から選択される、請求項 12 記載の医薬組成物。

【請求項 22】

有効量の創傷治癒因子をさらに含み、該創傷治癒因子が、インターフェロン - 、インターフェロン - 、インターロイキン (IL) - 1 、 IL - 2 、 IL - 4 、 IL - 5 、 IL - 15 、腫瘍壞死因子、 f1t - 1 リガンド、アルギニン、結合組織成長因子、アデノシン、環状アデノシンーリン酸、線維芽細胞増殖因子ファミリー、腫瘍成長因子 - 、腫瘍成長因子 - (1 及び 2) 、血管内皮細胞増殖因子、上皮細胞増殖因子ファミリー、血小板由来成長因子ファミリー、インスリン様成長因子ファミリー、一酸化窒素、マクロファージ刺激タンパク質、及びマクロファージ由来成長因子からなる群から選択される、請求項 12 記載の医薬組成物。

【請求項 23】

1) 創傷治癒の促進に効果を有する生成物 R の所定量； 2) 生物学的反応修飾因子；及び、 3) 医薬として許容し得る担体；を含む医薬組成物であって、該生物学的反応修飾因子が、インターロイキン - 2 、インターロイキン - 4 、インターロイキン - 6 及び腫瘍壞死因子からなる群から選択され、前記生成物 R がヌクレオチド、及び 14 kDa 以下の分子量を有するペプチドを含み、前記ヌクレオチド及びペプチドが、カゼイン、ペプトン、 RNA 及び血清アルブミンの分解生成物であり、かつ前記組成物が、 260 nm / 280 nm で 2.0 (± 10 %) 、及び 260 nm / 230 nm で 1.4 (± 10 %) の典型的な吸収比で光吸收スペクトルを有する、前記医薬組成物。

【請求項 24】

1) 創傷治癒の促進に効果を有する生成物 R の所定量； 2) 創傷治癒因子；及び、 3) 医薬として許容し得る担体；を含む医薬組成物であって、該創傷治癒因子が、インターロイキン (IL) - 1 、 IL - 2 、 IL - 4 、 IL - 5 、 IL - 15 、腫瘍壞死因子、 f1t - 1 リガンド、アルギニン、結合組織成長因子、アデノシン、環状アデノシンーリン酸、線維芽細胞増殖因子ファミリー、腫瘍成長因子 - 、腫瘍成長因子 - (1 及び 2) 、血管内皮細胞増殖因子、上皮細胞増殖因子ファミリー、血小板由来成長因子ファミリー、インスリン様成長因子ファミリー、一酸化窒素、マクロファージ刺激タンパク質、及びマ

クロファージ由来成長因子からなる群から選択され、かつ前記生成物Rがヌクレオチド、及び14kDa以下の分子量を有するペプチドを含み、前記ヌクレオチド及びペプチドが、カゼイン、ペプトン、RNA及び血清アルブミンの分解生成物であり、かつ前記組成物が、260nm/280nmで2.0(±10%)、及び260nm/230nmで1.4(±10%)の典型的な吸収比で光吸収スペクトルを有する、前記医薬組成物。

【請求項25】

創傷治癒の促進に効果を有する生成物Rの所定量を含む第一容器、及び抗生物質、生物学的反応修飾因子、又は創傷治癒因子を含む第二容器を含むキットであって、前記生成物Rがヌクレオチド、及び14kDa以下の分子量を有するペプチドを含み、前記ヌクレオチド及びペプチドが、カゼイン、ペプトン、RNA及び血清アルブミンの分解生成物であり、かつ前記組成物が、260nm/280nmで2.0(±10%)、及び260nm/230nmで1.4(±10%)の典型的な吸収比で光吸収スペクトルを有する、前記キット。

【請求項26】

創傷治癒の促進に効果を有する生成物Rの所定量を含む第一容器、及び生物学的反応修飾因子を含む第二容器を含むキットであって、該生物学的反応修飾因子が、インターフェロン-、インターフェロン-、インターロイキン-2、インターロイキン-4、インターロイキン-6及び腫瘍壞死因子からなる群から選択され、前記生成物Rがヌクレオチド、及び14kDa以下の分子量を有するペプチドを含み、前記ヌクレオチド及びペプチドが、カゼイン、ペプトン、RNA及び血清アルブミンの分解生成物であり、かつ前記組成物が、260nm/280nmで2.0(±10%)、及び260nm/230nmで1.4(±10%)の典型的な吸収比で光吸収スペクトルを有する、前記キット。

【請求項27】

創傷治癒の促進に効果を有する生成物Rの所定量を含む第一容器、及び創傷治癒因子を含む第二容器を含むキットであって、該創傷治癒因子が、インターフェロン-、インターフェロン-、インターロイキン(IL)-1、IL-2、IL-4、IL-5、IL-15、腫瘍壞死因子、f1t-1リガンド、アルギニン、結合組織成長因子、アデノシン、環状アデノシンーリン酸、線維芽細胞増殖因子ファミリー、腫瘍成長因子-、腫瘍成長因子-(1及び2)、血管内皮細胞増殖因子、上皮細胞増殖因子ファミリー、血小板由来成長因子ファミリー、インスリン様成長因子ファミリー、一酸化窒素、マクロファージ刺激タンパク質、及びマクロファージ由来成長因子からなる群から選択され、かつ前記生成物Rがヌクレオチド、及び14kDa以下の分子量を有するペプチドを含み、前記ヌクレオチド及びペプチドが、カゼイン、ペプトン、RNA及び血清アルブミンの分解生成物であり、かつ前記組成物が、260nm/280nmで2.0(±10%)、及び260nm/230nmで1.4(±10%)の典型的な吸収比で光吸収スペクトルを有する、前記キット。